エルヤシブ

	タイトル(書名)	章:節　聖句　〔検索対象総数：15 / 聖句等の総数 33250 〈エルヤシブ〉16個 〕　聖書Navi Active 393128091（新共同訳）［検索語彙：エルヤシブ］
K	歴代誌上	ダビデの子孫 3:24 エルヨエナイの子は、ホダウヤ、エルヤシブ、ペラヤ、アクブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人。
K	歴代誌上	24:12 第十一のくじはエルヤシブに、第十二のくじはヤキムに、 →レビ部族アロンの子孫でエルアザル系。ダビデが祭司職を24の部門に編成した時、第11組の祭司になった。
K	エズラ記	10:6 エズラは神殿の前を立ち去り、エルヤシブの子ヨハナンの祭司室に行き、そこで一夜を明かしたが、パンも水も取らなかった。捕囚の民の背信を嘆き続けていたからである。
K	エズラ記	10:24 詠唱者の中では、エルヤシブ。門衛の中では、シャルム、テレム、ウリ。 →エズラの勧告で異民族(異邦人)の妻を離縁した。
K	エズラ記	10:27 ザトの一族のエルヨエナイ、エルヤシブ、マタンヤ、エレモト、ザバド、アジザ。
K	エズラ記	10:36 ワンヤ、メレモト、エルヤシブ、 →バニの一族(エズラ記10：34)
K	ネヘミア記	3:1 大祭司エルヤシブは、仲間の祭司と共に羊の門の建築に取りかかり、それを奉献し、扉を付けた。次いでハンメアの塔まで、更にハナンエルの塔まで奉献した。
K	ネヘミア記	3:20 続いて、ザバイの子バルクが第二の部分を城壁の角から大祭司エルヤシブの家の入り口まで熱心に補強した。
K	ネヘミア記	3:21 続いて、ハコツの孫でウリヤの子であるメレモトが第二の部分をエルヤシブの家の入り口からその家の端まで補強した。
K	ネヘミア記	12:10 イエシュアにはヨヤキムが生まれ、ヨヤキムにはエルヤシブが生まれ、エルヤシブにはヨヤダが生まれ、
K	ネヘミア記	12:22 エルヤシブ、ヨヤダ、ヨハナン、ヤドアの時代にレビ人は、その家長が祭司と共にペルシアの王ダレイオスの治世まで記録された。
K	ネヘミア記	12:23 レビ人の家長は、エルヤシブの子ヨハナンの時代まで、年代記に記録された。
K	ネヘミア記	13:4 これに先立って、トビヤに縁のある祭司エルヤシブは、神殿の祭司室を任されていたが、 ※トビヤ：アンモン人(ネヘミヤ2：10）、ユダの王ヨシャファトの命により律法を教えるために派遣されていた。
K	ネヘミア記	13:7 エルサレムに帰り、エルヤシブがトビヤのために神殿の庭にある収納庫を流用して、そのために行った悪事を知った。
K	ネヘミア記	13:28 大祭司エルヤシブの孫でヨヤダの子の一人が、ホロニ人サンバラトの娘婿となっていた。わたしは、彼を遠く追放した。

トビヤ

アンモン人とされるが実際はイスラエル人、一説ではアンモン地方の長官、指導者であったとも言われる。サンバラトと一緒にネヘミヤの城壁工事を妨害した地主階級に属するイスラエル（ユダヤ）人。サンバラトが城壁工事をあざ笑うために現場へ出かけると、トビヤも後からついていって人々を馬鹿にした（ネヘミヤ３：35)。その後もトビヤはサンバラトらと行動を共にして城壁工事の妨害工作を続けたが、彼は金持ちでユダの貴族たちとも姻戚関係にあり、その関係を通じてネヘミヤの行動を探る役目をはたした。トビヤは自分の利益ばかり考え、信仰心など持たない男だった。ネヘミヤが一時期エルサレムを留守にしたときには、縁故のある祭司エルヤシブを動かし、神殿の祭司室を個人的に利用してしまった。帰ってきたネヘミヤは憤り、トビヤの家具類を外に投げ出した（同 13：7、8)。

	タイトル(書名)	章:節　聖句　〔検索対象総数：19 / 聖句等の総数 33250 〈トビヤ〉23個 〕	聖書Navi Active 393128091 （新共同訳） [検索語彙：トビヤ]
K	歴代誌下	17:8 彼らと共にレビ人のシェマヤ、ネタンヤ、ゼバドヤ、アサエル、シェミラモト、ヨナタン、アドニヤ、トビヤとトブ・アドニヤが遣わされ、また祭司エリシャマとヨラムがこれらのレビ人に同行した。	
K	エズラ記	2:60 デラヤの一族、トビヤの一族、ネコダの一族、六百五十二人。	
K	ネヘミア記	2:10 ホロニ人サンバラトとアンモン人の僕トビヤは、イスラエルの人々のためになることをしようとする人が遣わされて来たと聞いて、非常に機嫌を損ねた。 ※サンバラト：サマリヤの長官で、城壁再建を阻止しようとした。	
K	ネヘミア記	2:19 ところが、ホロニ人サンバラト、アンモン人の僕トビヤ、アラブ人ゲシェムは、それを聞いてわたしたちを嘲笑い、さげすみ、こう言った。「お前たちは何をしようとしているのか。王に反逆しようとしているのか。」 ※ゲシェム：ペルシアの庇護を受け、アラブの部族を治めていた。	
K	ネヘミア記	3:35 アンモン人のトビヤはそばから言った。「できたとしても、そんな石垣など、狐が登るだけで崩れてしまうだろう。」	
K	ネヘミア記	4:1 サンバラトとトビヤ、それにアラブ人、アンモン人、アシュドドの市民は、エルサレムの城壁の再建が進み、破損の修復が始まったと聞いて、大いに怒った。 ※ネヘミヤは敵に囲まれていた。→北：サンバラトのサマリア、南：ゲシェムのアラブ、東：トビヤのアンモン 西：ペリシテのアシュドド	
K	ネヘミア記	6:1 サンバラト、トビヤ、アラブ人ゲシェム、その他わたしたちの敵は、わたしが城壁を再建し、崩れた所が一つとして残らず、あとは城門に扉を付けるだけだということを耳にした。	
K	ネヘミア記	6:12 彼は神が遣わした者ではなく、トビヤとサンバラトに買収されてわたしに預言したのだということをわたしは悟った。	
K	ネヘミア記	6:14 わが神よ、トビヤとサンバラトのこの仕業と、わたしを脅迫した女預言者ノアドヤや他の預言者たちを覚えていてください。 ※ネヘミヤは神の裁きに委ね、自分を陥れようとした人々に報復しない。	
K	ネヘミア記	6:17 そのころ、ユダの貴族は頻繁にトビヤに手紙を送り、トビヤの手紙も彼らに届いていた。	
K	ネヘミア記	6:18 ユダの多くの人は彼と互いに誓約を交わす関係にあったからで、トビヤはアラの子シェカンヤの娘婿であり、トビヤの子ヨハナンはベレクヤの子メシュラムの娘をめとっていた。	
K	ネヘミア記	6:19 彼らはわたしの前ではトビヤへの賛辞を述べ、トビヤにはわたしの言葉を密告した。トビヤはわたしに脅迫の手紙をよこした。	
K	ネヘミア記	7:62 デラヤの一族、トビヤの一族、ネコダの一族、六百四十二人。	
K	ネヘミア記	13:4 これに先立って、トビヤに縁のある祭司エルヤシブは、神殿の祭司室を任されていたが、	
K	ネヘミア記	13:5 かつて人々が穀物の献げ物と香と祭具、またレビ人と詠唱者と門衛のための、規定による十分の一の穀物と新しいぶどう酒と油、更に祭司のための礼物を納めることになっていたその大きな祭司室をトビヤのために流用した。	
K	ネヘミア記	13:7 エルサレムに帰り、エルヤシブがトビヤのために神殿の庭にある収納庫を流用して、そのために行った悪事を知った。	
K	ネヘミア記	13:8 わたしは非常に憤り、その祭司室からトビヤ家の器具類をすべて外に投げ出し、	
K	ゼカリヤ書	6:10「帰還した捕囚の中から、ヘルダイ、トビヤ、エダヤの家族から、贈り物を受け取りなさい。あなたはその日のうちに、ツェファンヤの子ヨシヤの家に入りなさい。彼らはバビロンから帰ったばかりである。	
K	ゼカリヤ書	6:14 冠はヘレム、トビヤ、エダヤ、およびツェファンヤの子の好意を記念するものとして、主の神殿に置かれる。	